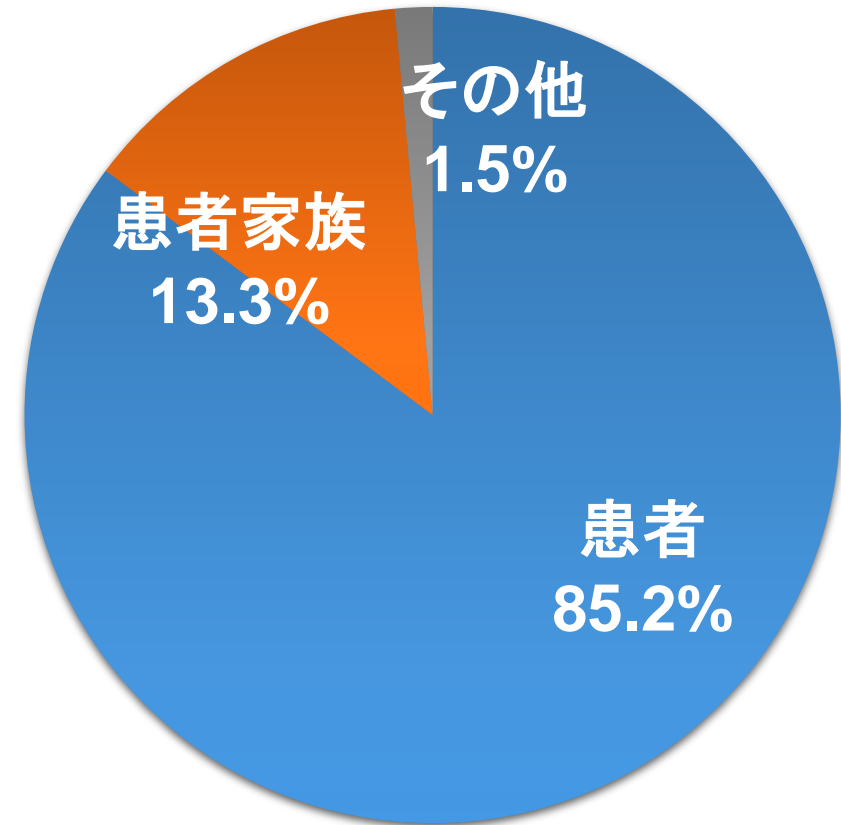
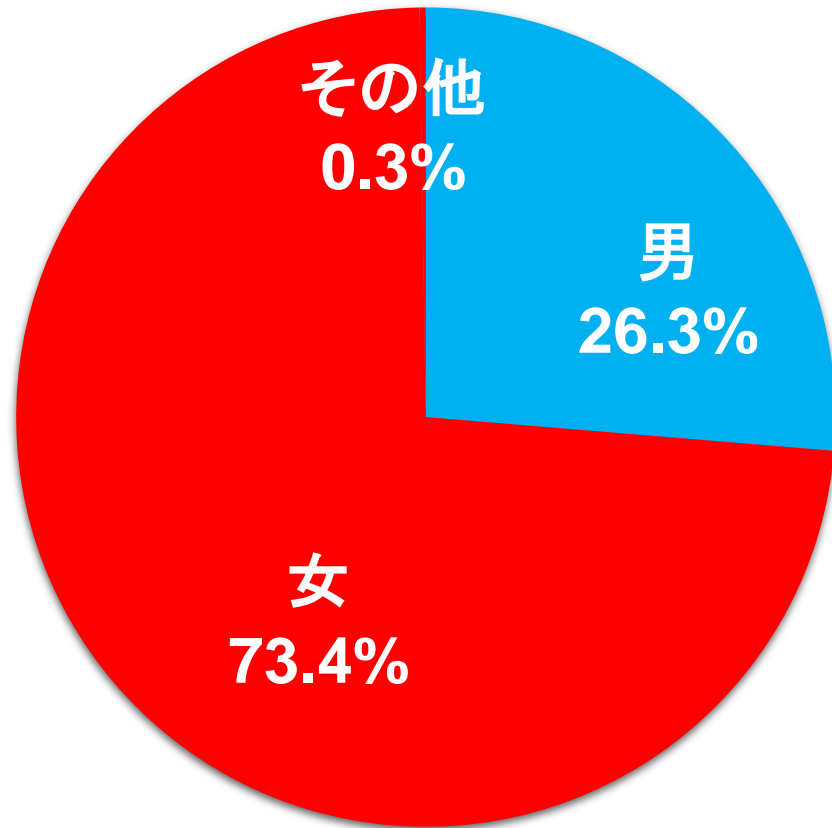


がん治療時の食事と栄養 アンケート調査報告

- 【実施】 認定NPO法人キャンサーネットジャパン
- 【協力企業】 ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー
- 【調査方法】 アンケートシステムを使ったWEB調査
- 【調査期間】 2020年9月11日～9月18日
- 【調査対象者】 キャンサーネットジャパンのセミナーや講演会に参加された
ご登録者から、現在治療中もしくは治療を受けたことがある
がん患者とそのご家族 3,781人
- 【回答者数】 406人

【回答者の性別と立場について】

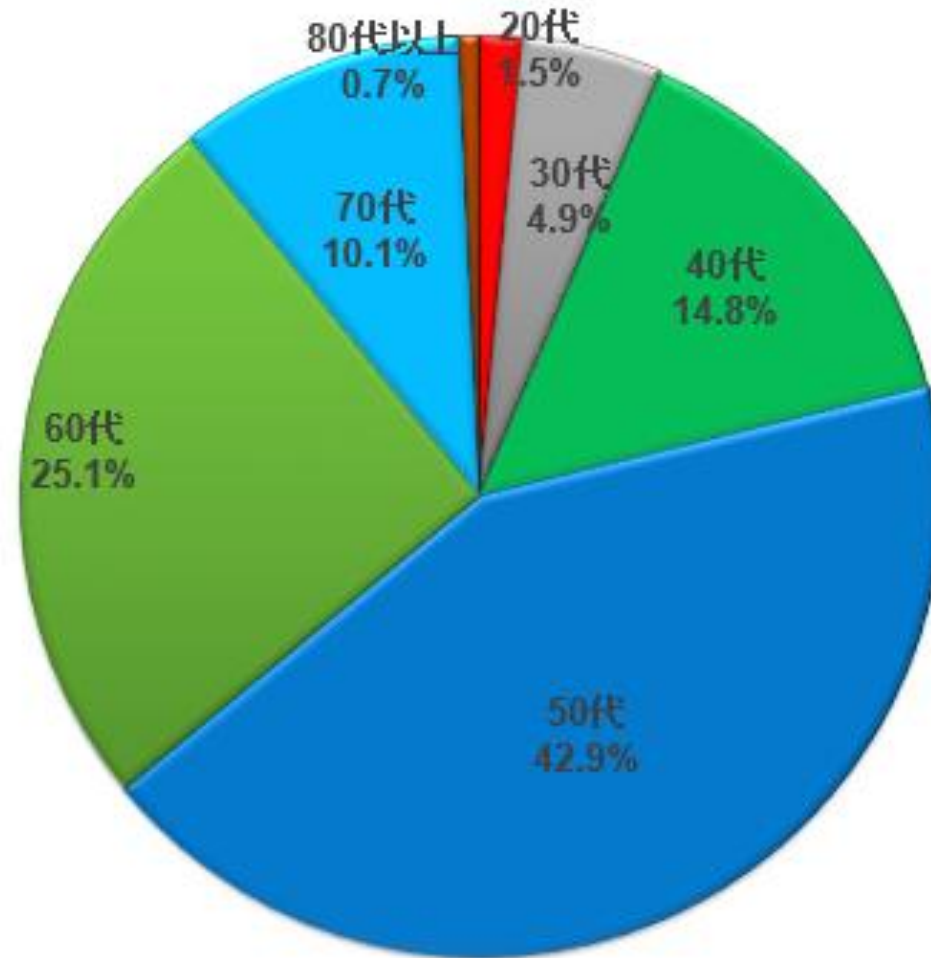
N=406



回答者は、女性が多く約3/4を占めています。また患者さんからの回答を多くいただきました。

【回答者の年代について】

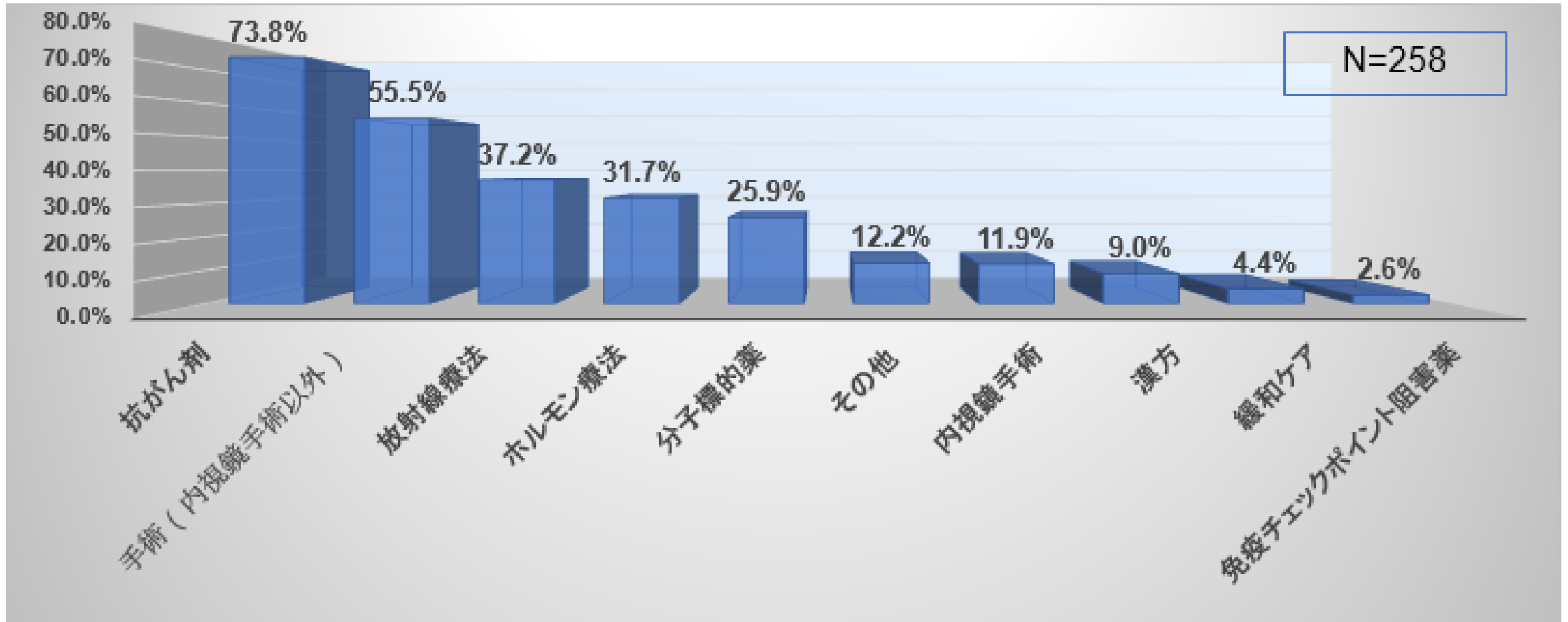
N=406



50代が一番多く次いで60代、40代の方に多く回答いただきました。

【がんの治療で受けたもの（受けているもの）を教えてください（複数回答可）】

（回答のあった方のみ）

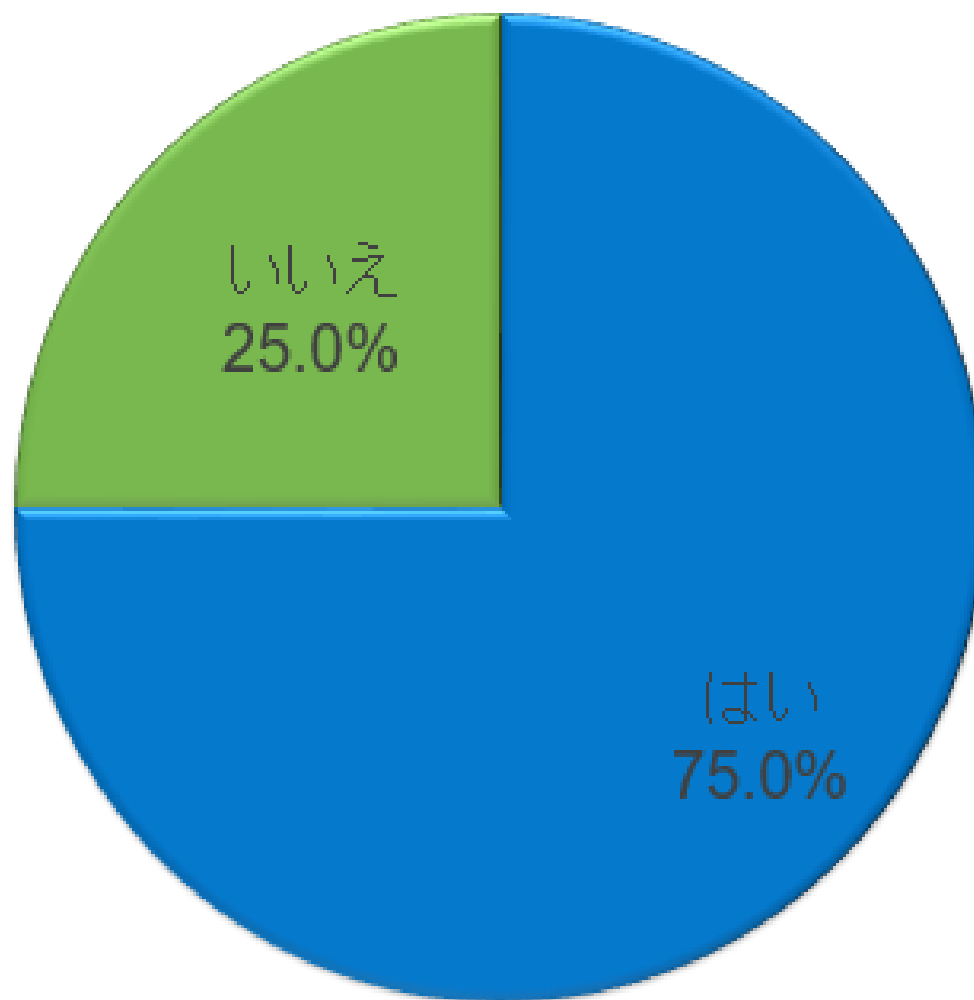


抗がん剤治療を受けている方が全体の73.8%と一番多い事がわかります。加えて半数以上の方が手術を受けていることがわかりました。

【がんの治療や副作用で食事に関する悩みはありました（あります）か】

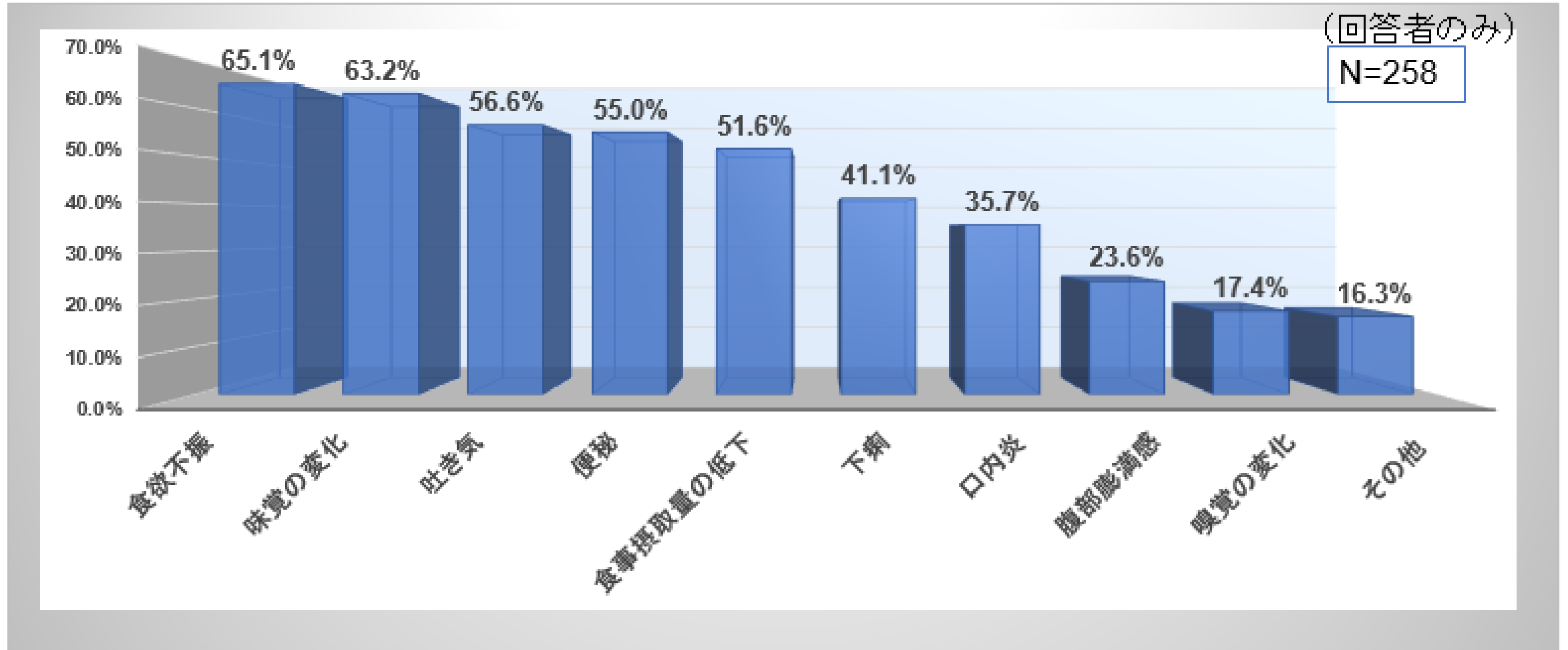
(回答者のみ)

N=344



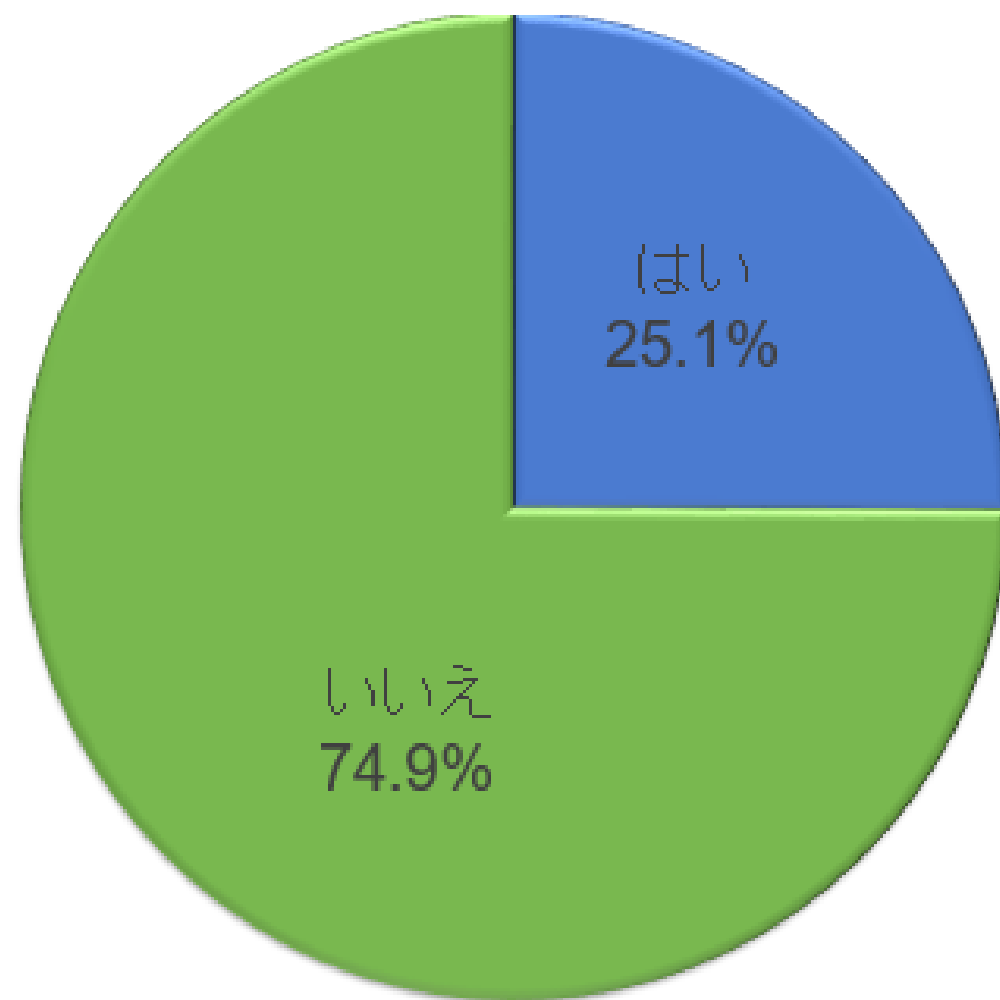
回答者の3/4の方が、がん治療や副作用による食事の悩みを持っていることがわかりました。

【食事に関して、がん治療や副作用によりどのようなことで困りました（困っています）か（複数回答可）】



食欲不振、味覚の変化、吐き気、便秘は半数以上の人で悩んでいることがわかりました。

【がんに罹ってから、体重減少を防ぎ必要な栄養を摂取していくための栄養指導を受けたことがありますか】 (回答者のみ)

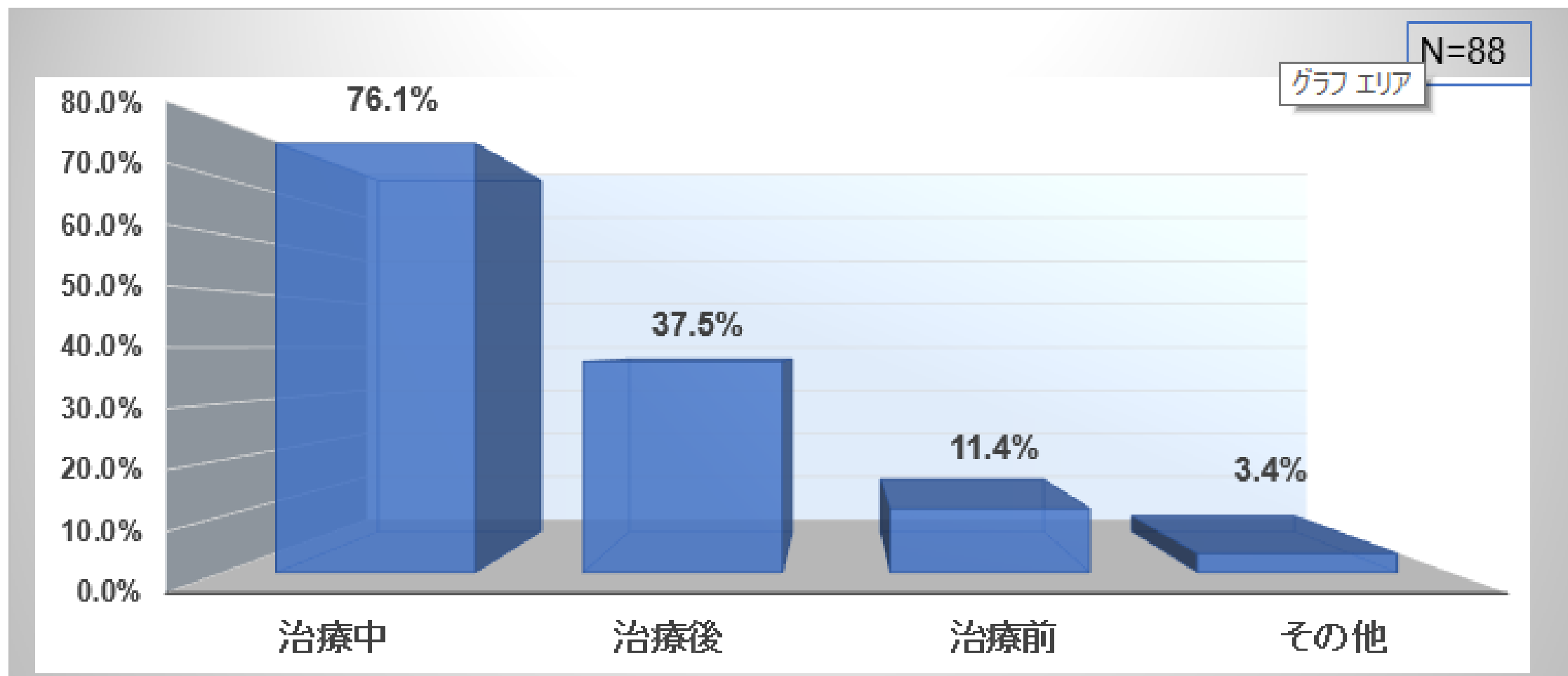


N=343

回答者の約3/4が栄養指導を受けたことはありませんでした。

【体重減少を防ぎ必要な栄養を摂取していくための栄養指導を受けたのはいつですか
(複数回答可)】

(「指導を受けたことがある」の回答者のみ)

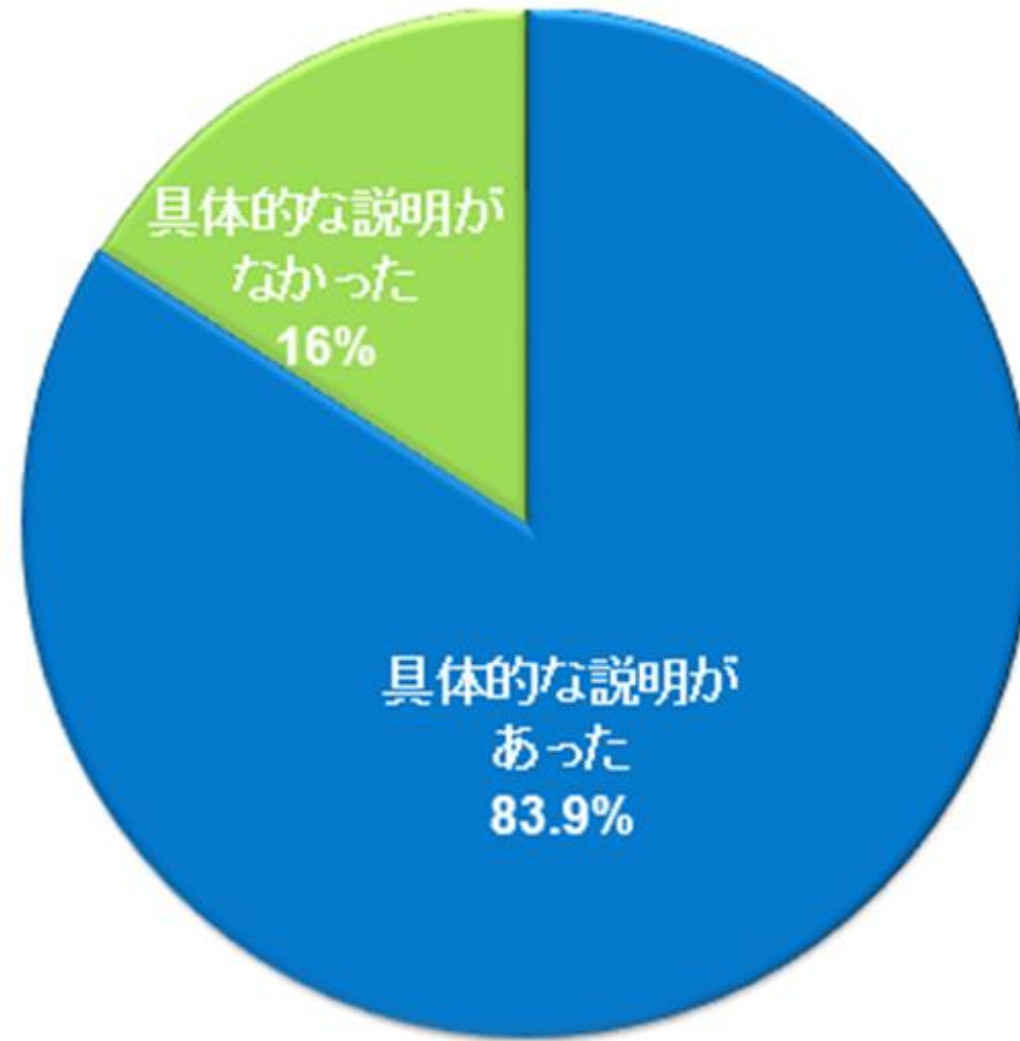


患者さんが栄養指導を受けた時期は治療中が一番多く76.1%であることがわかりました。

【患者さんの症状に合わせた具体的な説明はありましたか】

(「指導を受けたことがある」の回答者のみ)

N=88

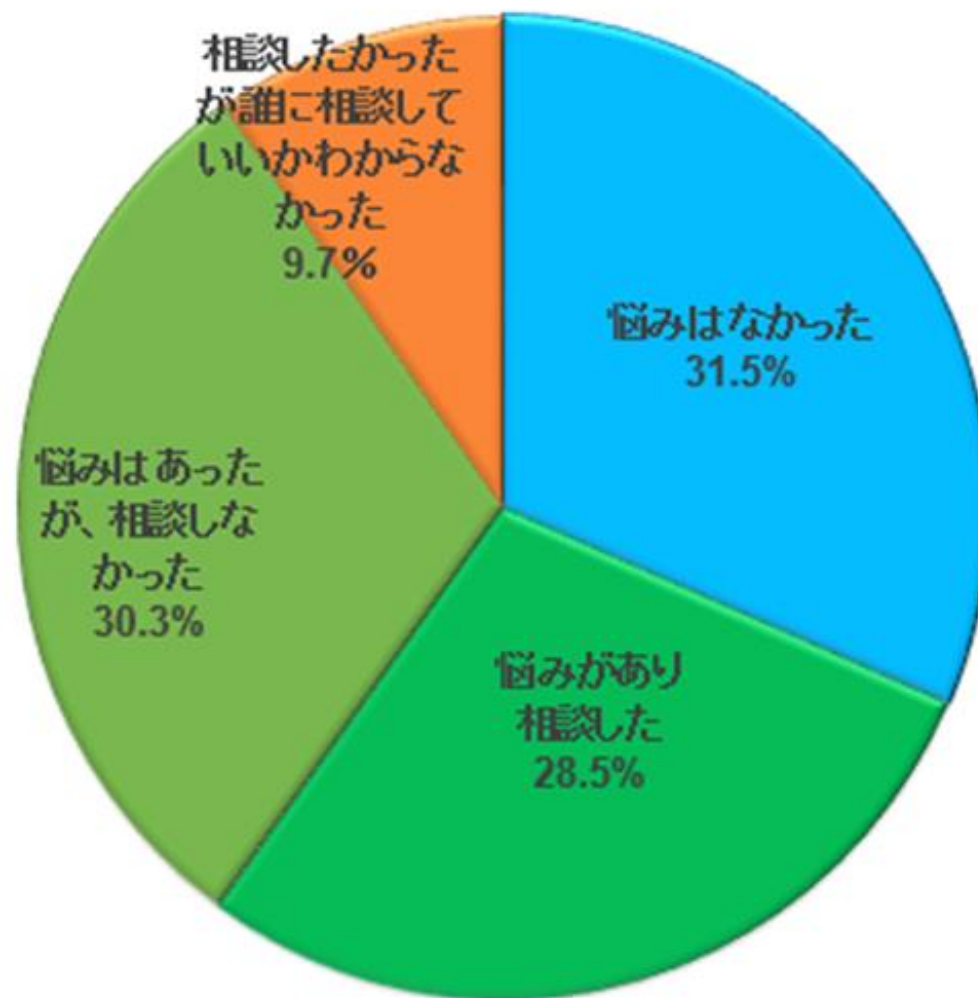


栄養指導を受けた人では、約84%が症状に合わせた具体的な説明を受けていました。

【患者さんが体重を維持し、栄養状態を管理をしていく上で、悩みはありましたか。
その悩みについて誰かに相談しましたか】

(回答者のみ)

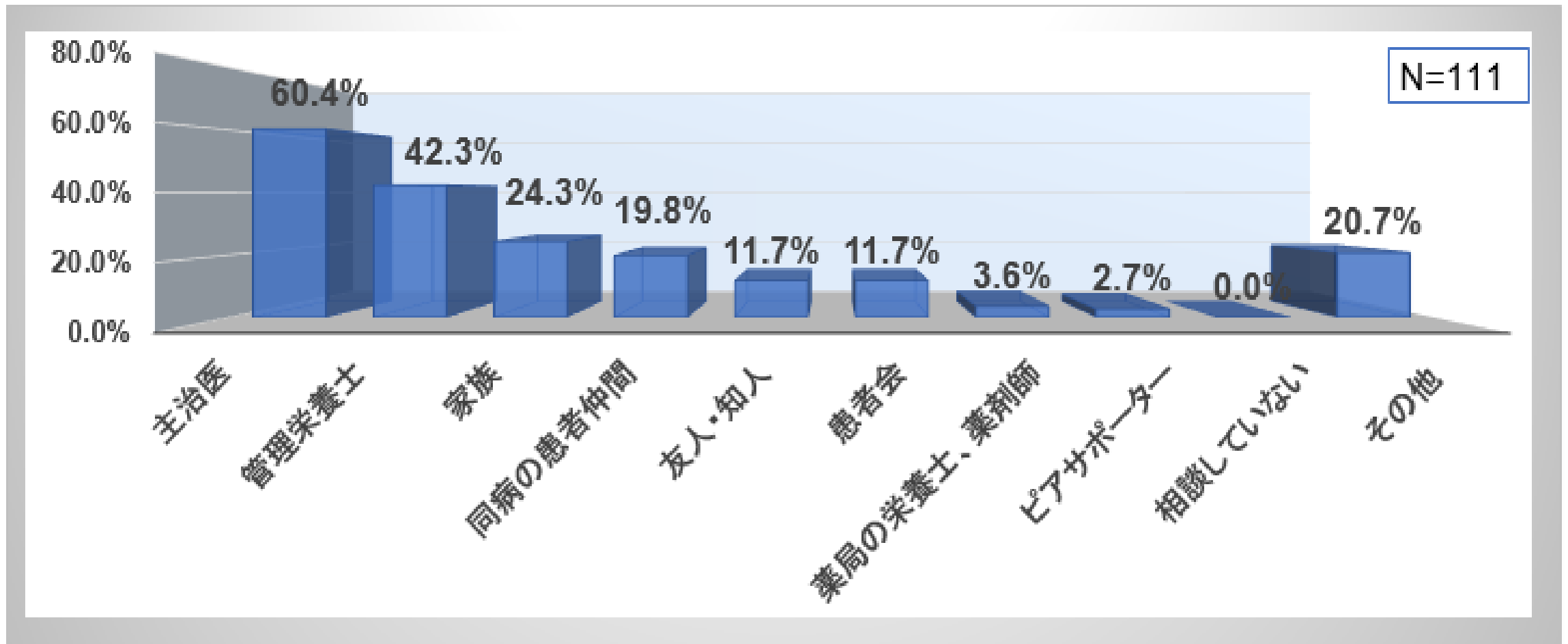
N=400



悩みがあり相談ができた人は28.5%でした。

【栄養状態が改善されなかった際に誰に相談しましたか（複数回答可）】

（「相談した」の回答者のみ）

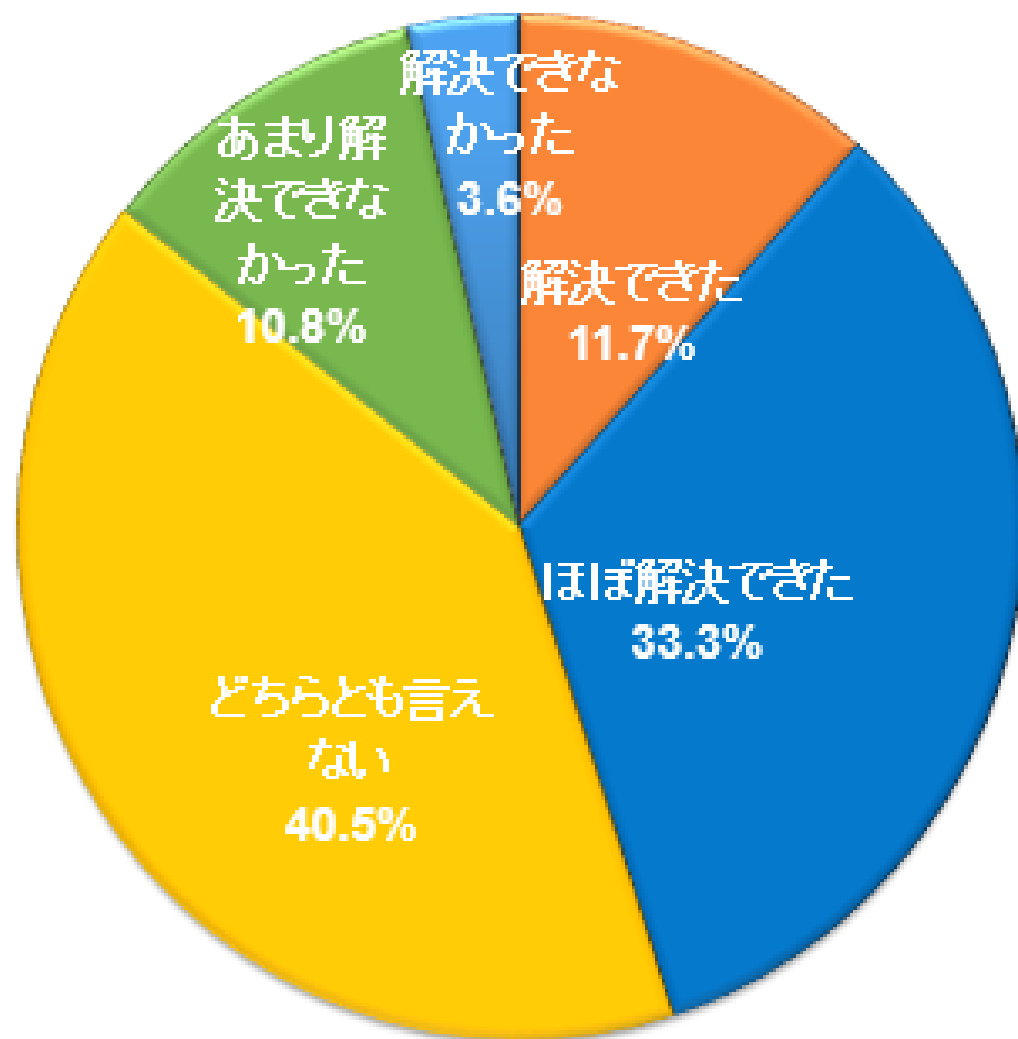


栄養状態の改善については60.4%が主治医に相談しており、管理栄養士への相談は半数以下でした。

【相談して栄養状態についての悩みが解決できましたか】

(「相談した」の回答者のみ)

N=111

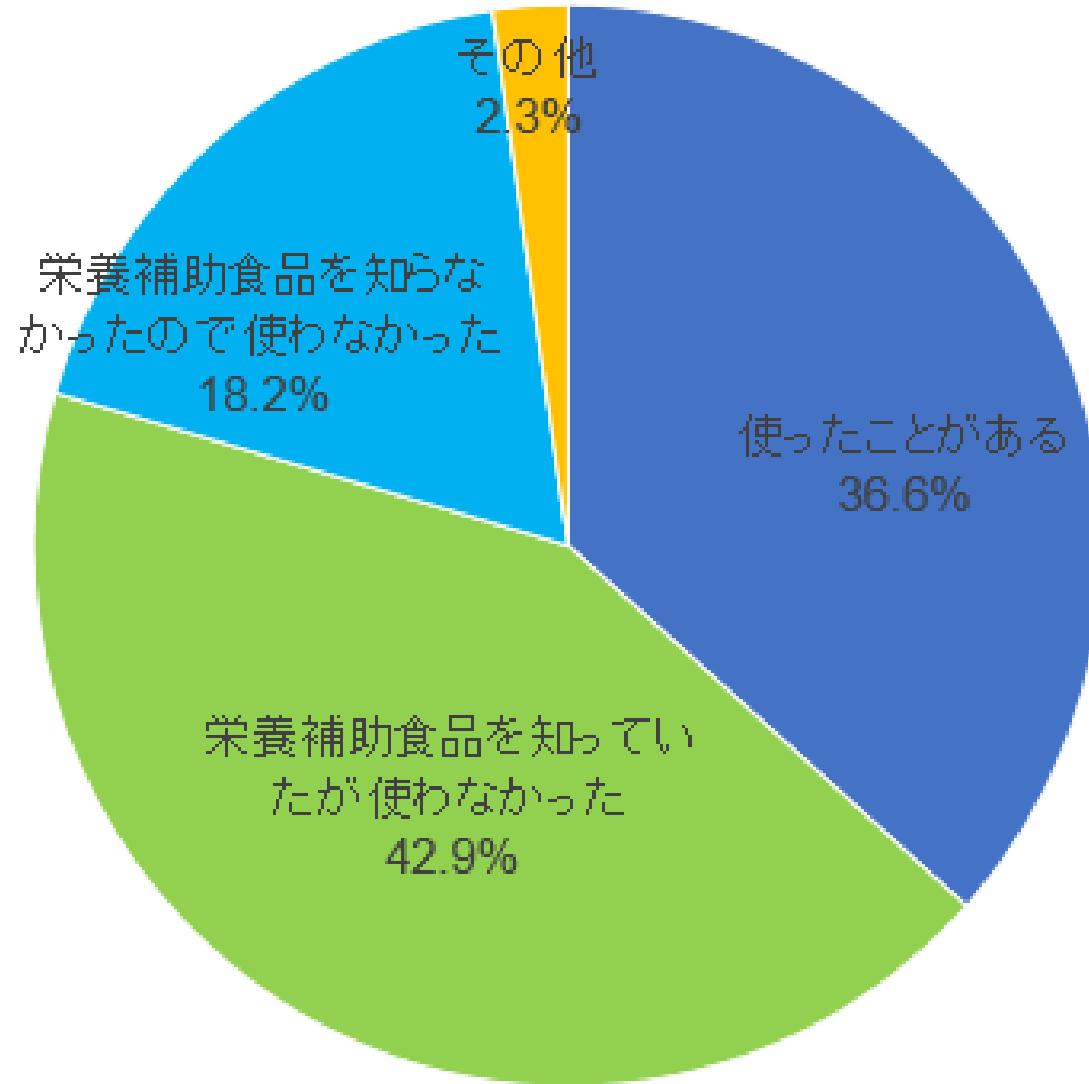


栄養状態についての悩みを相談して解決できた、およびほぼ解決できたのは45%でした。

【食事の量や栄養不足を補うため栄養補助食品を使ったことがありますか】

(回答者のみ)

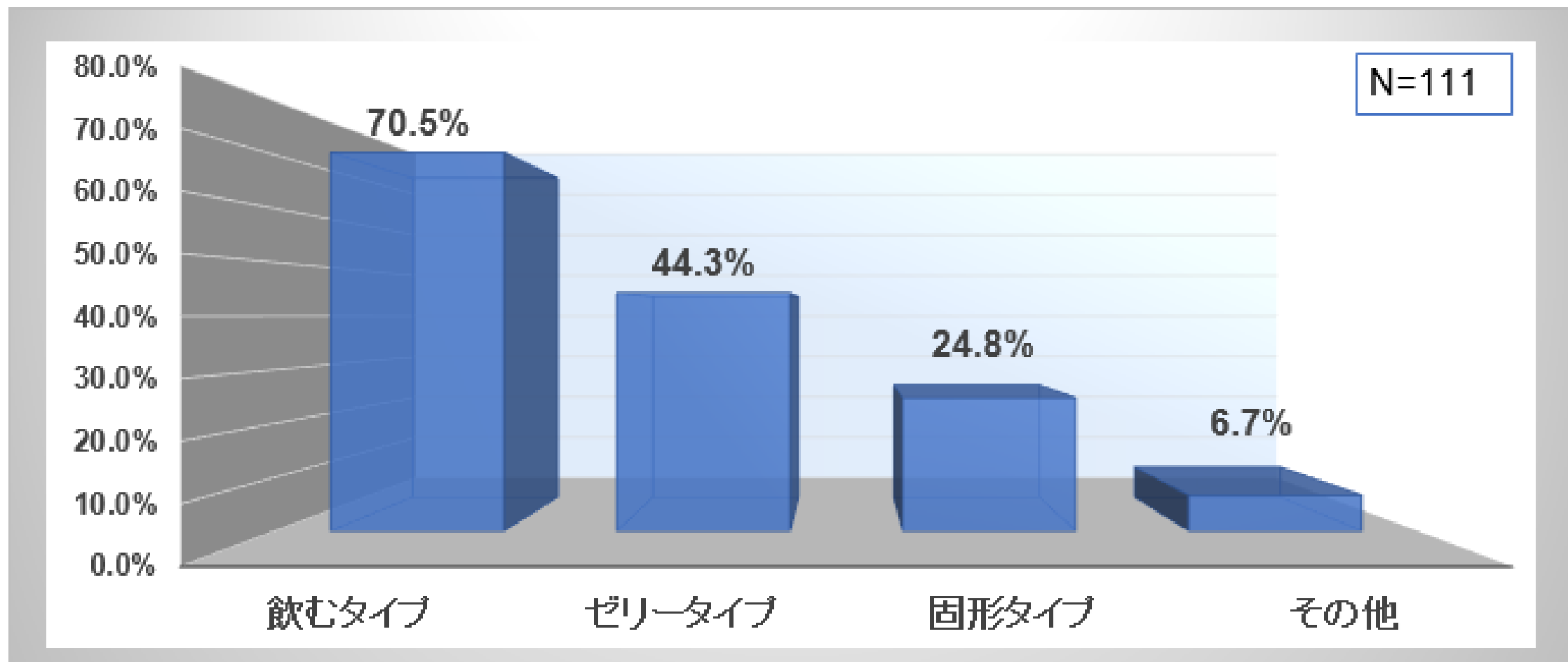
N=400



栄養補助食品を知らない人が約18.2%、知っていたが使わなかった人は42.9%で合計61%でした。

【どのようなタイプの栄養補助食品を使ったことがありますか(複数回答可)】

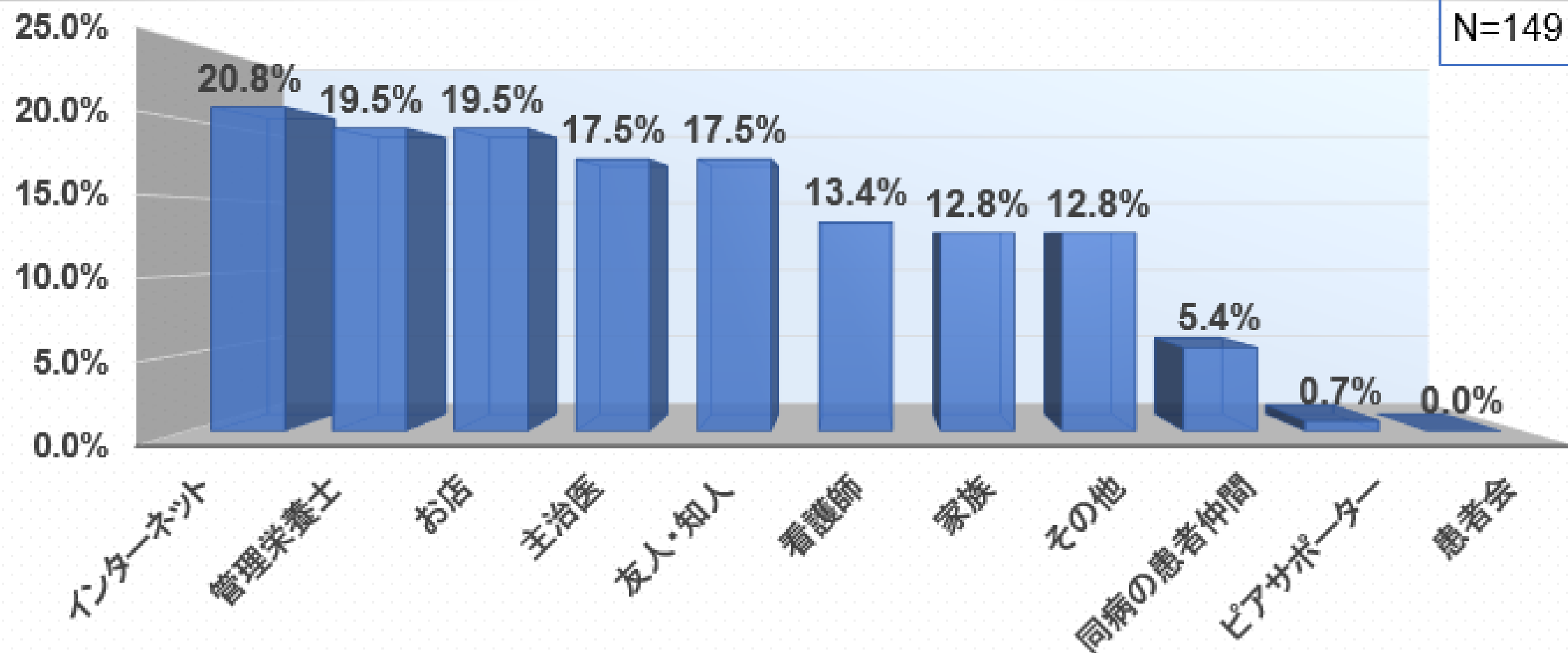
(栄養補助食品を使ったことがある人のみ)



栄養補助食品を使っている人の70.5%は飲むタイプ、44.3%はゼリータイプ、固形タイプは24.8%を使っていることがわかりました。

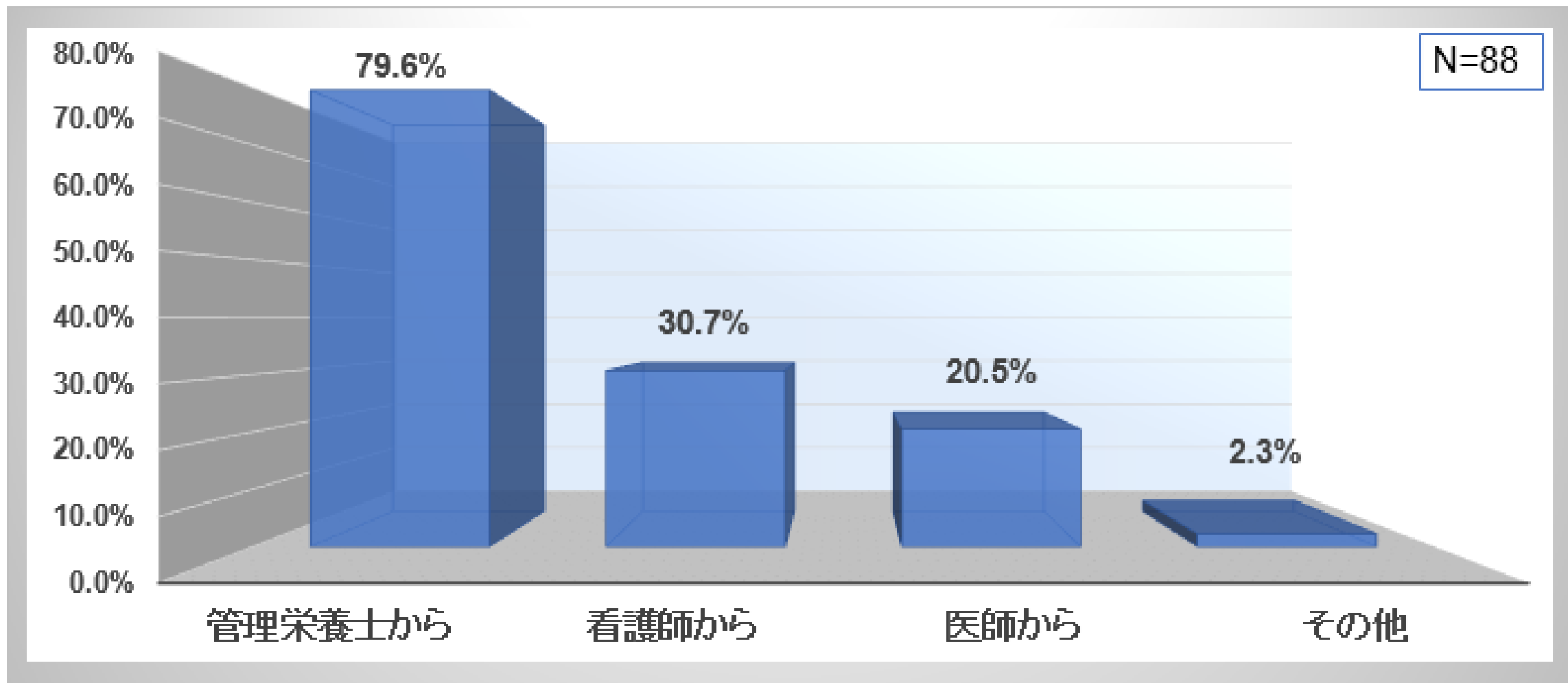
【その栄養補助食品を選択したきっかけを教えてください（複数回答可）】

（栄養補助食品を使ったことがある人のみ）



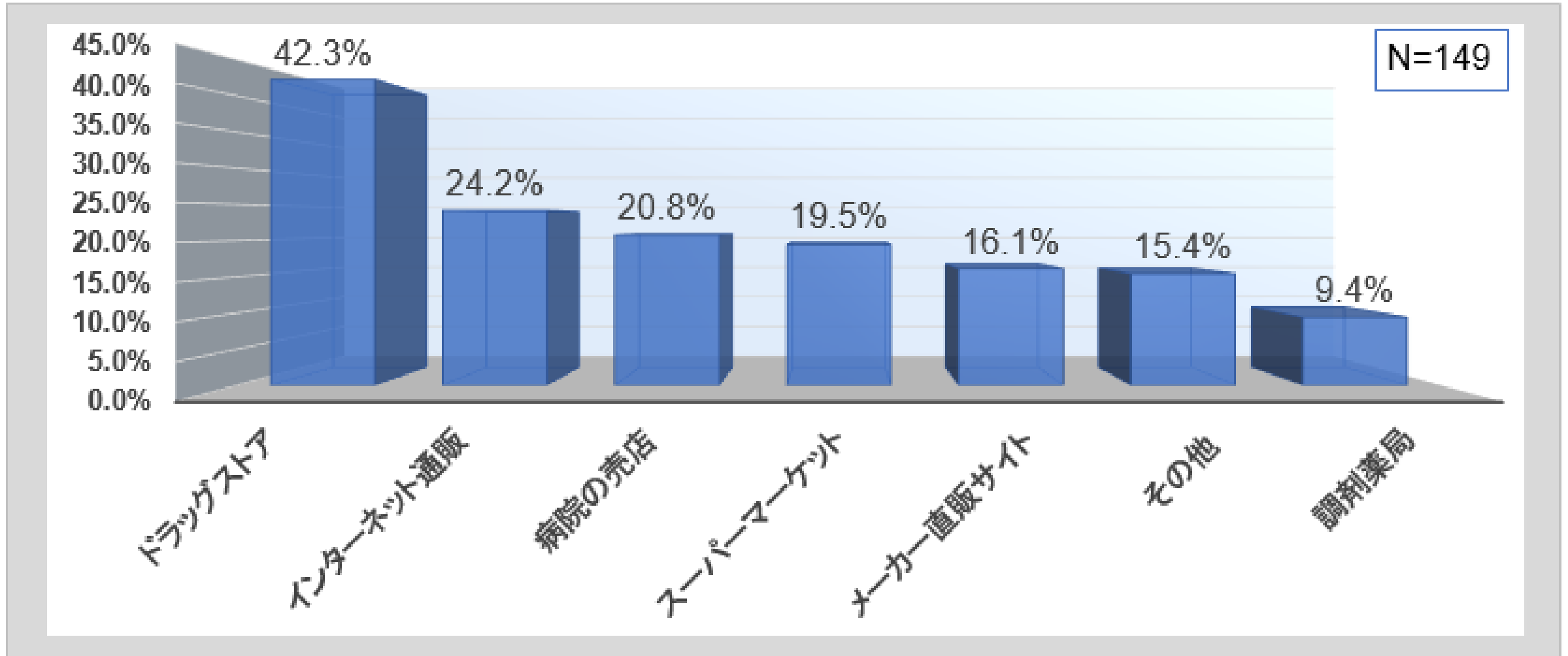
栄養補助食品については、さまざまなきっかけで選択することがわかりました。

【体重減少を防ぎ必要な栄養を摂取していくための栄養指導を誰から受けましたか】
(「指導を受けたことがある」の回答者のみ)



79.6%のほとんどの人が管理栄養士から栄養を指導を受けていることがわかりました。

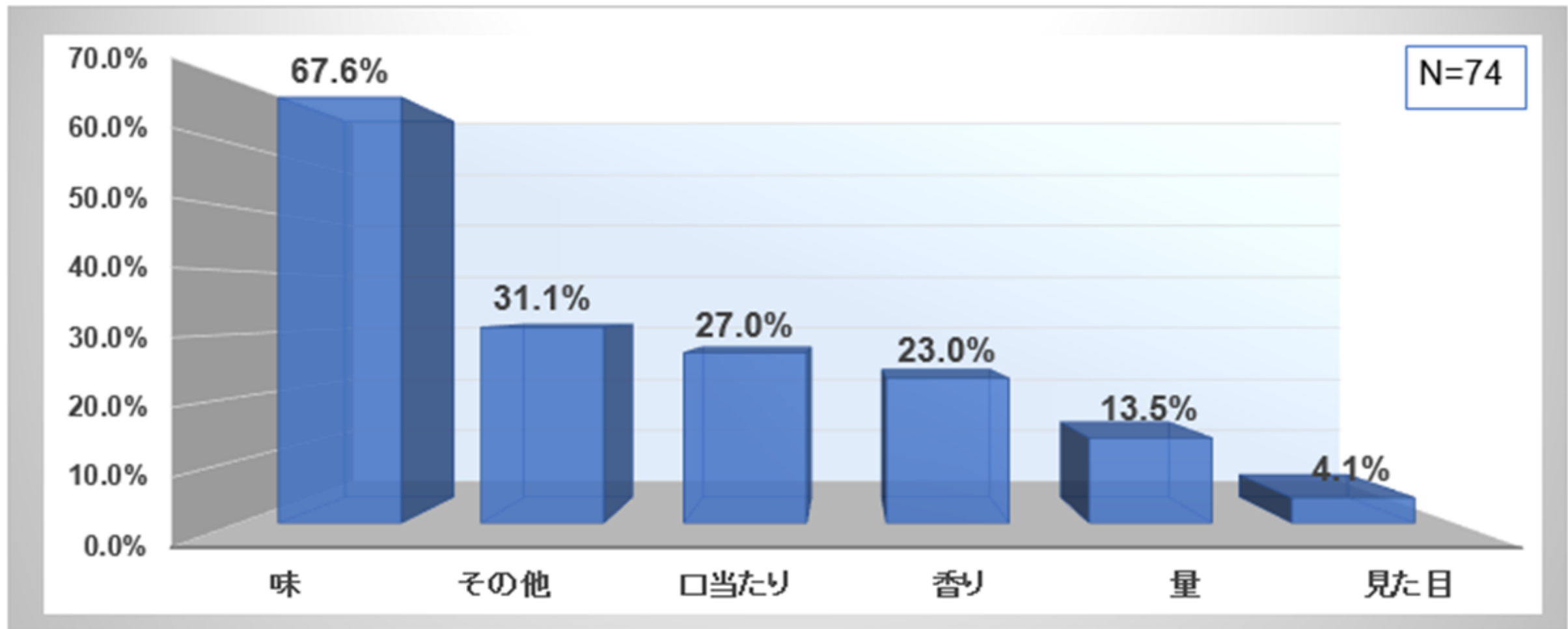
【どこで栄養補助食品を購入していますか。または購入していましたか
(複数回答可)】



栄養補助食品を購入する際、42.3の人がドラッグストアで購入していることがわかりました。

【栄養補助食品の継続について、問題があった方、継続できなかった方にお伺いします。どのような点に問題がありましたか(複数回答可)】

(「使ったことがある」と答えた人のみ)

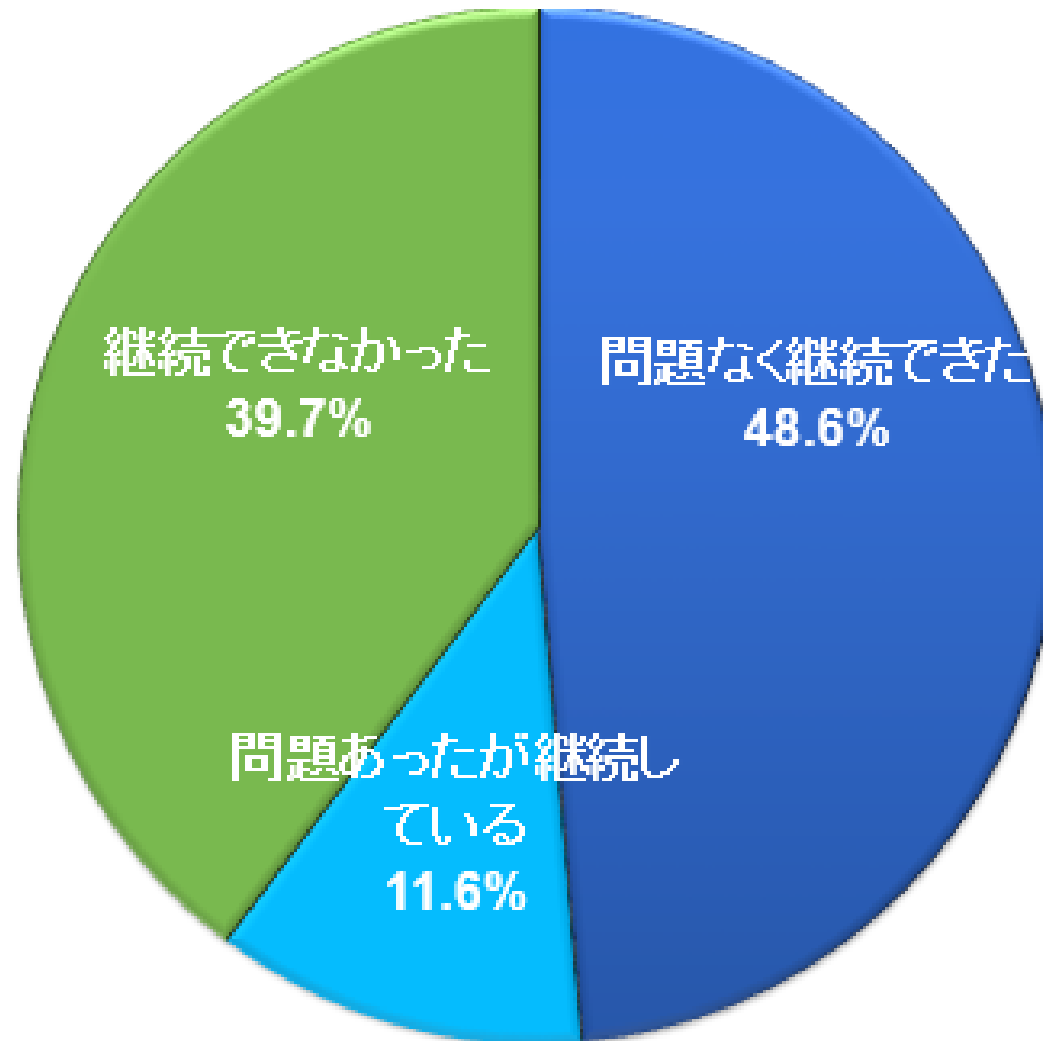


栄養補助食品の継続についての問題は味と答えた人が一番多く67.6%でした。

【栄養補助食品を継続して使うことはできましたか】

(使ったことがあると答えた人のみ)

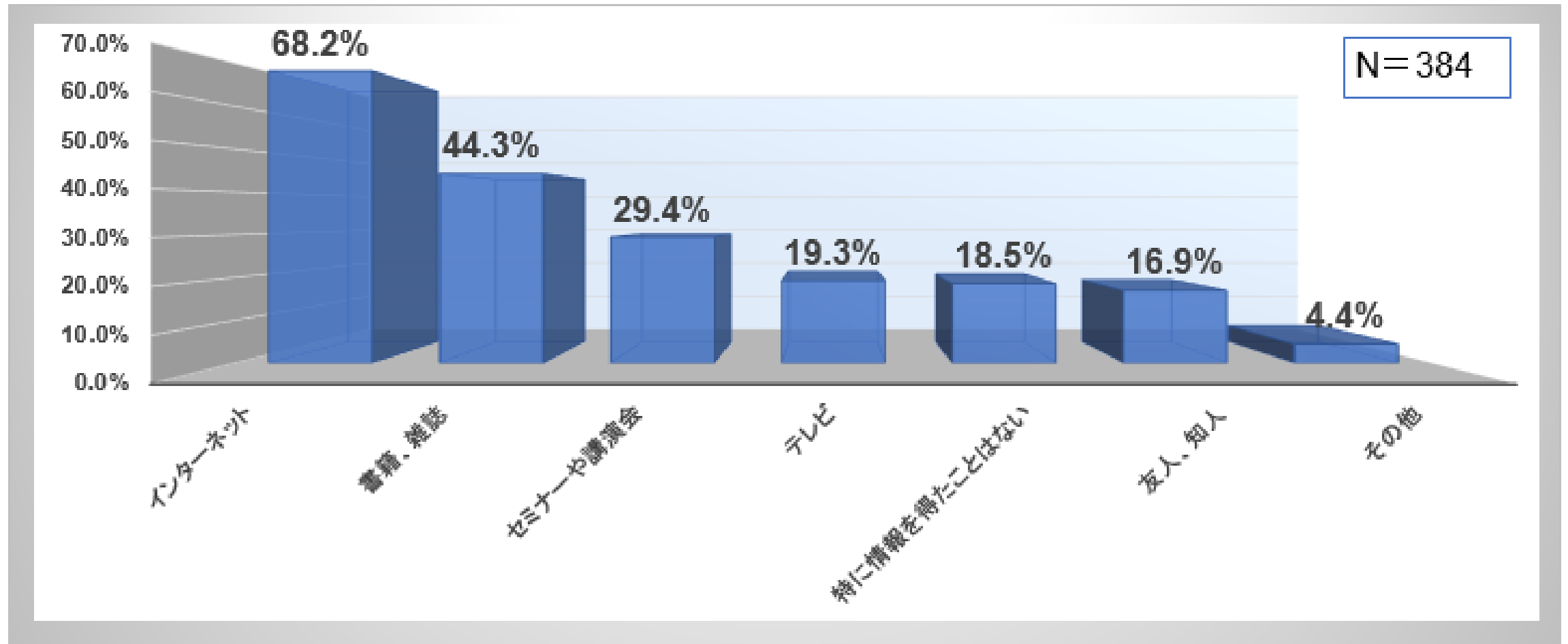
N=149



栄養補助食品については、問題無く継続できたが48.6%、問題あったが継続できたが11.6%
合計60.2%が継続できていることがわかりました。

【医師や看護師、管理栄養士などの医療従事者以外で、栄養管理についての情報を得ているものがあれば教えてください。（複数回答可）】

(回答があった人のみ)



医療従事者以外で栄養管理については約7割の人がインターネットから情報を得てることがわかりました。

【アンケート調査を終えて】

「治療時における食事と栄養」について、がん患者さんと患者さんのご家族からアンケート調査をご協力いただきました。

抗がん剤や治療の後遺症による食事の悩みでは、65%の方が「食欲不振」を上げており、回答者の半数以上が、「味覚の変化」、「吐き気」、「食事量の低下」に悩んでいると答えました。

そのような状況の中で、管理栄養士ほか医療従事者に栄養の相談ができた人の45%は、栄養状態についての悩みが解決されたと答えています。

また、体重を維持して栄養状態を管理していくための相談ができたかという問いに対して「できなかった」と答えた人は、「だれに相談してよいかわからなかった」9.7%、「悩みはあったが相談しなかった」30.3%となっています。

一方、栄養状態をサポートするための「栄養補助食品」については、約2割の人が「知らなかったから、使わなかった」と答えています。

半面、栄養補助食品を使っている人については、60.2%の人が継続できています。

これらの結果から、適切な時期にその人に合った栄養相談を受けることがとても重要だということがわかってきました。

がん治療時の栄養摂取は、患者さんの日々の生活の質（QOL）およびその後、治療を遂行できるかどうかということにも繋がります。

さまざまな課題が見えてきた今回のアンケート調査結果が、今後の患者さんの支援に繋がる一歩になりますよう願っています。

最後にアンケートにご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。